





FUKUYAMA



# 各論



## ■章の最初のページの見方

マーク	意味
	「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」で、「以前（おおむね5年前）より良くなった」と回答している市民の割合が平均値以上のもの。
	「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」で、「以前（おおむね5年前）より良くなった」と回答している市民の割合が平均値未満のもの。
	「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」で、「以前（おおむね5年前）より良くなった」と回答している（満足度）割合を示す。長い矢印は、平均値以上、短い矢印は、平均値未満を表している。（上の表情のマークと同じ意味。）
	「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」で、市民が今後のまちづくりに重要と考えている割合を示す。長い矢印は、平均値以上、短い矢印は、平均値未満を表している。

※福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート:2005年(平成17年)1月,7月実施。

## ■福山のキラリ

各章における福山市の特徴的な取組を「福山のキラリ」として表現しています。

- ・「ここがキラリ」は、これまでも、これからも福山市の特徴として輝いている取組です。
- ・「これからキラリ」は、今後、これまで以上に福山市の特徴として輝くように取り組む施策等です。

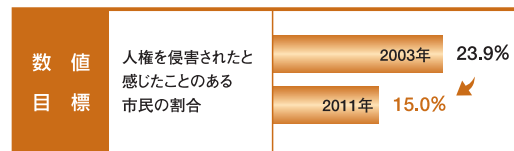
## ■各項の見方

第1章 だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち  
 第1節 人間としての尊厳や自由を尊重する人権文化が根付いた地域社会の実現  
 第1項 人権の尊重

目 標 人を大切にし、みんながいきいきと幸せに生活できるまち

この項の目的を達成したときの福山市の姿を「目標」として表現しています。また、達成度を判断するための代表的な指標を「数値目標」として設定しています。

## ■数値目標



## ■取り巻く環境(現状と課題)

**人権意識の向上**  
 本市は、同和問題の解決と恒久平和の実現を重点課題として取り組んできました。その結果、人権学習会の定着などにより、市民の人権・平和に対する意識が高まっています。

**様々な人権問題の存在**  
 高齢者や児童に対する虐待、DV、インターネットによる人権の侵害、障害のある人や外国人の人権など、様々な人権問題に取り組み、人権文化が根付いた地域社会を実現する必要があります。

この項を取り巻く重要なポイント(現状と課題)を「取り巻く環境」として記載しています。分かりやすいように見出しでポイントを強調しています。

## ■「目標」を達成するための取組

**人権・平和に関する教育・啓発の推進**

- 幼児期からの人権・平和教育
- 人権・平和に関する啓発活動

子どもから大人まで、人や命を大切にすることができるように、保育所・幼稚園、学校、地域、職場などで人権や平和に関する教育や啓発活動を進めます。

施策と主な事業を記載しています。施策には説明を加えています。

**市民として**

人権問題にかかわる研修などへ積極的に参加しましょう。

市民と行政がお互いに目標を共有するため、市民として取り組んでいただきたいことを記載しています。(市民には団体や事業者も含まれます。)





1 ごみ固形燃料工場/2 救助工作車/3 久松通り  
4 仙酔島/5 生活バス/6 服部川のホテル

# 第1章 だれもが安心して安全で 快適に暮らせるまち

第1章では、人権、防犯・防災、生活基盤、環境などに関する具体的な取組を示します。

本市では、市民が安心して安全に住み続けられるまちをめざし、人権を尊重した平和なまちづくりや、災害に強い都市整備、道路、河川、上下水道などの生活基盤整備、自然環境を大切に省資源・省エネルギーなどを進めてきました。引き続き、芦田川の水環境の改善や環境に配慮した美しいまちづくりなどへの取組を進めていく必要があります。

## 第1章の施策体系

人間としての尊厳や自由を尊重する  
人権文化が根付いた地域社会の実現

- 人権の尊重
- 男女共同参画の推進
- ユニバーサルデザインの推進

安心して安全に生活できる地域社会  
づくりの推進

- 防犯対策の強化
- 防災・危機管理体制の充実
- 消防・救急体制の充実
- 交通安全対策の推進
- 安心できる消費生活の実現

自然と調和したうまいとゆりのあ  
る環境と景観の形成

- 良好な景観形成
- 緑の保全と創出

快適な暮らしを支える生活基盤の  
整備

- 生活道路と河川・水路の整備
- 上水道の充実
- 下水道の整備
- 住宅・宅地の整備
- 斎場・墓苑・墓地の整備
- 公共交通サービスの充実

地球にやさしい環境づくりと循環型社  
会の形成

- 地球・地域環境の保全
- 循環型社会の構築



## これまでの主な取組に対する市民の評価とニーズ

これまでの主な取組内容	良くなったと思う人の割合	満足度 →	重要度 →
<b>人権問題や平和のための活動</b> ・人権交流センター事業の推進,男女共同参画センター整備など		→	→
<b>防災体制や自然災害対策</b> ・急傾斜地崩壊対策,自主防災組織の育成など		→	→
<b>消防や救急体制の整備</b> ・消防局庁舎整備,消防車両・救急車両・消防艇の整備など		→	→
<b>市街地などの景観の整備</b> ・電線類地中化,鞆町並み保存の推進など		→	→
<b>下水道の整備</b> ・公共下水道,雨水対策など		→	→
<b>市内のバスなど公共交通機関の整備</b> ・生活バス路線確保事業など		→	→
<b>ごみ・し尿・産業廃棄物の適正な処理</b> ・ごみ固形燃料工場建設,小型浄化槽設置補助など		→	→

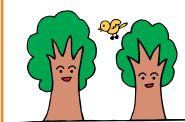
## 福山のキラリ

**ユニバーサルデザインの推進**  
公共施設へのスロープ設置や大きな文字の封筒を作成するなど、だれもが暮らしやすいまちづくりを進めています。

ここがキラリ

**子どもの安全対策の充実**  
保育所・幼稚園、小学校の緊急通報システムやこども110番の家など、子どもの安全対策を強化しています。

ここがキラリ



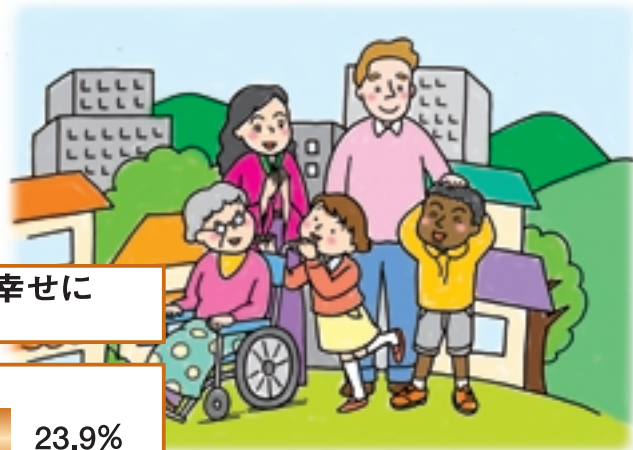
**地球にやさしい環境づくり**  
環境基本計画を定め、省エネや緑化の推進など、地球や地域にやさしい環境をめざします。

これからキラリ

**救命救急センターの整備**  
命が危険な状態にある患者を救うため、24時間体制で対応する救命救急センターを整備して、市民の安心・安全を支えています。

ここがキラリ

# 第1項 人権の尊重



目標	人を大切にし、みんながいきいきと幸せに生活できるまち	
数値目標	人権を侵害されたと感じたことのある市民の割合 <sup>※27</sup>	2003年 23.9%
		2011年 15.0%

## 取り巻く環境(現状と課題)

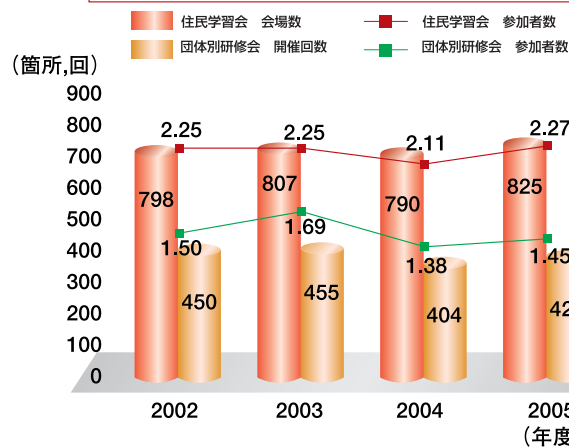
### 人権意識の向上

本市は、同和問題の解決と恒久平和の実現を重点課題として取り組んできました。その結果、人権学習会の定着などにより、市民の人権・平和に対する意識が高まっています。

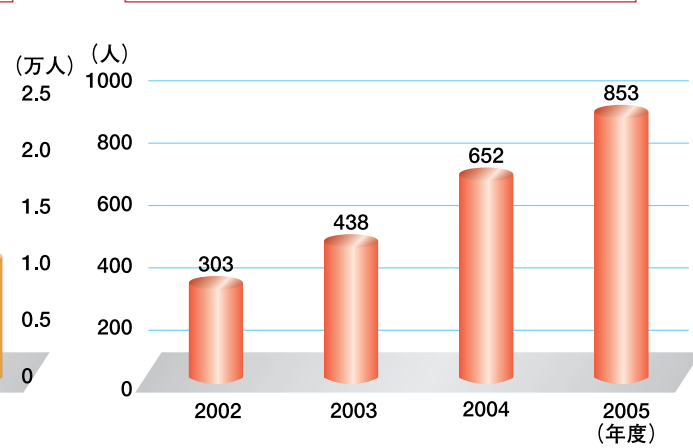
### 様々な人権問題の存在

高齢者や児童に対する虐待、DV<sup>※28</sup>、インターネットによる人権の侵害、障害のある人や外国人の人権など、様々な人権問題に取り組み、人権文化が根付いた地域社会を実現する必要があります。

### 学区における人権学習会の推移



### 市担当課での人権相談件数の推移



(資料) 福山市資料

27 人権を侵害されたと感じたことのある市民の割合: 「2003年(平成15年)福山市人権・同和問題についての意識調査」による。  
 28 DV(ドメスティック・バイオレンス): 夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対して振られる暴力のこと。  
 29 人権文化: あらゆる人によって人権問題が語られる状況をつくり上げること。

## 「目標」を達成するための取組

### 人権・平和に関する教育・啓発の推進

子どもから大人まで、人や命を大切にすることができるように、保育所・幼稚園、学校、地域、職場などで人権や平和に関する教育や啓発活動を進めます。

- 幼児期からの人権・平和教育
- 人権・平和に関する啓発活動

### 人権擁護の推進

高齢者や児童に対する虐待、DV、インターネットによる人権侵害などの問題について、関係機関と情報を共有しながら、早期解決のため、相談・支援・救済体制を充実します。

- 人権相談体制の充実
- 擁護・保護機能の充実

### 人権尊重のまちづくり

人権尊重のまちづくりは、行政、市民、地域において市民活動を行う団体、企業などが協働して取り組んでいくことが必要です。そのための環境づくりや推進体制の充実に努めます。

- 地域と連携した協働体制の推進

### 平和非核都市福山宣言

恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。この崇高な目標の達成なくして、福山市が目指す活力と潤いに満ちた心のふれあう都市づくりの実現も、またあり得ない。

しかるに、今日の世界情勢は緊張の度を加えつつあり、世界平和と人類の生存に大きな脅威をもたらしていることは憂慮にたえない。

福山市民は、生命の尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願うとともに、核武装の廃絶を全世界に強く訴え、恒久平和を求め、ここに、平和非核都市の宣言をする。

1984年(昭和59年)12月17日

福山市



福山市人権平和資料館見学風景



平和非核都市福山宣言石碑

### 市民として



人権問題にかかわる研修などへ積極的に参加しましょう。



第2項

# 男女共同参画の推進



目標

男女が性別にかかわらず個性と能力を十分に生かせるまち

数値

男女の地位が平等になっていると思う市民の割合<sup>※30</sup>  
[2007年度市民意識調査後に設定]

目標

審議会などへの女性委員の選任割合 22.9% (2006年度)  
→ 男女の委員数の均衡を図る

取り巻く環境(現状と課題)

### 男女の能力や役割に対する固定的な考え方の存在

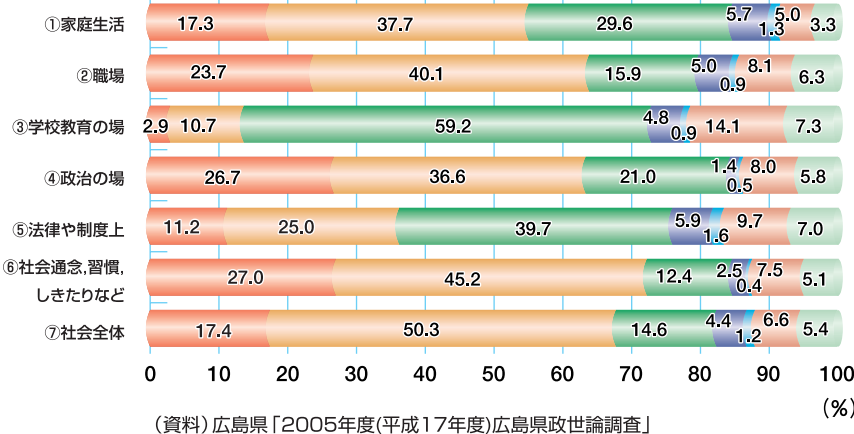
女性に対する暴力の深刻化や、家庭、職場などにおける性別による役割の固定的な考え方が依然として存在するなど、個性と能力を十分に生かすきれない状況があり、市民意識を啓発していくことが必要です。

### 男女共同参画を推進するためのニーズの多様化

男女共同参画を推進するための様々なニーズに対応するため、イコールふくやま<sup>※31</sup>などにおいて、学習講座や情報発信、相談、交流活動など、男女共同参画の取組をより一層進めていくことが必要です。

### 広島県における男女の地位の平等感

- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答



30 男女の地位が平等になっていると思う市民の割合:2007年度(平成19年度)に行う「第二次男女共同参画基本計画策定に伴う市民意識調査」後に設定。

31 イコールふくやま:男女共同参画センター(西町一丁目福山ロッツ地下2階)の愛称のこと。

### 「目標」を達成するための取組

#### 男女共同参画を進める人づくり

男女が互いに良きパートナーとして社会を築き上げることの大切さや、お互いが自立に向けての意識が持てる取組を進めます。また、男女共同参画を推進するリーダーとなる人材の育成に取り組みます。

- 男女共同参画に関する啓発の充実
- 男女共同参画を推進する人材育成

#### 男女共同参画を進める環境づくり

男女が性別にかかわらず個性と能力を発揮でき、あらゆる分野に参画できるように取り組みます。また、DVやセクシュアル・ハラスメント<sup>※32</sup>、就労などの問題解決に向けた取組を行います。

- 職場や家庭における男女共同参画の推進
- 相談体制の充実



イコールふくやま(男女共同参画センター)



イコールふくやまでのセミナー

市民として

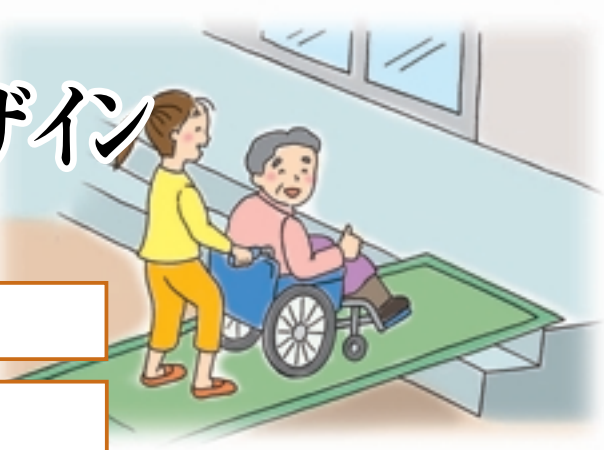


性別による役割の固定的な考え方をなくしましょう。

32 セクシュアル・ハラスメント:相手の意に反する性的な言動により、相手方に不利益を与え、又は相手方の生活環境を害すること。例えば、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的うわさの流布、わいせつな写真の掲示など様々なものが含まれる。

### 第3項

# ユニバーサルデザインの推進



#### 目標

だれもが暮らしやすさを実感できるまち

#### 数値目標

住んでいる学区の高齢者・障害のある人などの活動のしやすさ満足度 <sup>※33</sup>	2006年度	5.6%
	2011年度	10.0%

### 公共施設やまちなみのユニバーサルデザイン(UD)<sup>※34</sup>

本市では、高齢者や障害のある人だけでなくだれにもやさしい暮らしやすいまちづくりをめざし、公共施設へのスロープや多目的トイレの設置、文字の大きな封筒の作成などに取り組んできました。今後も、こうした取組を着実に進めていくことが必要です。

### ユニバーサルデザインの意識づくり

UDを進めていくためには、市民一人ひとりの意識を高めることが大切です。本市では、啓発用教材により、地域での学習会などにおいてUDに関する市民への啓発活動を進めていますが、UDの考え方が十分に理解されているとはいえない状況にあります。このため、地域の学習会・行事などを通じて、UDに対する意識をより一層高めていくことが必要です。

### 情報格差の拡大

情報化は、利用できる人とそうでない人における情報格差を拡大するという一面もあります。障害のある人やひとり暮らしの高齢者など、情報を得ることが困難な人に対しても伝わる情報提供と支援が必要です。



ユニバーサルデザイン封筒

33 住んでいる学区の高齢者・障害のある人などの活動のしやすさ満足度：「都市計画に関する市民アンケート」による。

34 ユニバーサルデザイン：すべての人のためのデザインという意味。私たちが生活していく上で、性別や年齢・国籍・障害の有無など、人々の様々な個性や違いを超えて、すべての人が暮らしやすい、まちづくり・ものづくり・人づくり・環境づくりなどを行っていかうとする考え方のこと。

### 「目標」を達成するための取組

#### ユニバーサルデザインの視点による環境整備

「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」のUDの考え方を取り入れ、利便性、安全性などを高め、快適で人にやさしい生活環境を整備します。

- 公共施設などの環境整備
- 民間事業者への啓発

#### 心のユニバーサルデザイン

市民一人ひとりが「やさしさ」や「思いやり」の心を持ち、社会の基本的なマナーを守るように、UDの考え方を市民に伝える啓発活動を進めます。

- UD学習会・研修会の開催

#### ユニバーサルデザインの視点による情報提供

行政サービス、進学、就労、地域活動などの情報がだれにでも的確に伝わるよう、UDの視点による情報提供と状況に応じた支援を充実します。

- コミュニケーション支援体制の充実



### 市民として



お互いの個性や違いを認め合い、思いやる心を持って行動しましょう。